

酪農業を営む

看護師の取り組み

全国訪問ボランティアナースの会

「キャンナス釧路」竹内 美妃 代表

(国際緊急援助隊医療チーム登録
看護師・酪農家・竹内牧場代表)



＝Think Globally, Act Locally＝

地球的規模のレベルで考えて、地域レベルで行動しよう

私にとって昆布漁を営むトヨさんご家族との出会いは、忘れられない思い出です。今年のお盆には、ご家族からお誘いを受け、トヨさんの位牌を囲みながらご家族が収穫した北海シマエビや、たくさんのごちそうを前にトヨさんの思い出話に花が咲きました。

トヨさんは、80歳にして人工肛門を造設し、自宅への退院が決まりました。退院時には専門看護師から人工肛門のパウチ交換を自分でできるように指導を受け、手先の器用なトヨさんはきちんと行うことができていました。

本人は家に帰りたいたいと言いますが、離れて暮らす子供たちとしては、やはり人工肛門の管理は本人

だけでは大変で、84歳の夫と2人暮らしをさせるには不安がありました。このような状態では自宅で療養させることなどできないだろう、と思っていたそうです。

かかりつけの総合病院は、浜中町から2時間離れた釧路市にあり、すぐに通える距離ではありません。そこで退院後、トヨさんの在宅療養支援をお願いできないかと相談がありました。早速、札幌から帰省していた娘さんと一緒に退院指導を受けるところから、私の関わりは始まりました。

主治医である総合病院のK先生は、私が挨拶に行くと、公的な訪問看護ステーションではなく有償とは言えボランティア活動で、地域で在宅介護をする家族支援の「キャンナス釧路」の活動に、大変興味を持って理解してくださいました。すぐに病棟の師長も一緒になって応援してくれ、遠隔地での連携医療としてインターネットを活用した確実な情報交換の体制を整えてもらうことができました。

人工肛門に関しては適宜専門看護師から助言をもらうことができ、K先生には常時Eメールで患者の状況を伝え、K先生が不在の時にも他の医師に申し送りができていました。おかげで私1人が悩むことなく、常に今後の病状の予測や展望など、医師とともに把握していくことができました。

私は約4日おきにストーマ交換のため、トヨさんの家に訪問しました。ストーマの交換は、せめて食後2時間くらいは空けないと、交換時に汚染して2度手間です。普通の人が、朝起きたらまずトイレへ行って排泄を済ませ、それから朝食を摂る、という行為と、ストーマの場合も同じ感覚で、交換する日は朝起きたらいち早く交換したいのが普通の心情です。ですから、トヨさんは交換するまで朝食は摂らずに私を待っています。公的

な訪問看護の定期訪問の場合、たいへいは午前中早くても9時、10時からの訪問になり、トヨさんのような思いであればずっと待っているのかもしれない。

また、人工肛門

のパウチ交換も、回を重ねていくごとに皮膚の状態変化や、体調による便の性状変化などによって、はがれてしまうことが多くなります。4日に1度という定期的な訪問だけではなく、はがれた時にはすぐに張り直さなくては押さえきれずに汚染が広がってしまう、という状態の日もありました。定期的な訪問以上に、そのような時こそ、家族にとっては看護師の支えがほしい、それを叶えられるのが「キャンナス」なのだと思えます。

私は酪農業を営んでいるので、午前4時から毎



竹内牧場とお隣の昆布漁師さんの昆布干し場

連載7 漁業者家族の看取り(前編)
総合病院の医師との連携